

## ■ 全体講評

今回実施されたプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後Ⅰの記述式問題は、短文の記述式解答の問いの数が多いという近年の本試験の特徴に対して、やや解答問題数が少なく一つの問いでしっかり字数を記述する問題になっています。白紙の解答は少なく皆さんきっちり解答できていますが、設問の要求事項や問題文の解答ポイントが捉えにくく解答しづらい問いが散見されました。難しいと感じられた人が多かったと思いますが、今回60点以上得点できた人は自信をもってよいと思います。得点が芳しくなかった人は解答の要点や表現を見直し、得点を取れるようにする努力を心がけてください。

本試験では、解答の影や筋が全く見当たらないような難問奇問のたぐいの問題は、まず出題されることはないと考えてよいと思います。したがって、午後Ⅰの記述式問題の解答に当たっては、一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解し解答を導いていくことが求められます。どうしても問題文や設問文に手掛かりが見つからないとき初めて、一般的知識による解答を考える必要があります。つまり、問題文や設問文に解答制約や手掛かりは必ずあると考えましょう。適切に把握すれば、必然的に正解へたどりつくことができると信じて取り組みましょう。この手順に誤りがあった場合、例えば、一方的な思い込みや自分自身の特定な経験に対するこだわりなどによって不正解の解答になってしまうので、設問要求や問題の意図するところを読み取り、確実にいえるレベルの表現で解答していくことが重要となります。

今回、正解したつもりで不正解になってしまった場合、設問要求に沿っていない、問題文の手掛かりやキーワードに準拠していない、問題文の中で客観的にいえる範囲を超えているという理由であると考えてください。その内容自体は正しくても、その問いの正解としてふさわしくないのです。不適切な解答の中で多いのは、解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答、要求事項や指示に従っていない解答といえます。問題文や設問文に書かれている記述やキーワードは大きなヒントであり、解答の手掛かりの一部であることをしっかり理解した上で、設問要求に沿って適切な表現で解答をまとめるようにしましょう。解答欄に対してボリュームが異常に少ない雑な表現、高度情報処理技術者としてのプロフェッショナル性を疑わせるぞんざいな俗っぽい表現、「そこまで限定して解答できるのだろうか」と感じられる強引な解答表現や、い

ろいろなことを列挙してどれかが正解に引っかかることを期待するような解答は、採点者に対して心象が悪く、それだけで減点対象となりえます。結果として正解とならないおそれがあるので注意しましょう。

午後Ⅰ試験では全3問の出題から2問を選択解答する必要があります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと2問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えて採点欄に丸を付ける人がいました。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して、指示どおり確実に問題選択することを心がけてください。なお、漢字の間違いや略字、問題文や設問文の内容とずれた解答が幾つかありました。また、単語レベルで説明不足の解答表現も見受けられています。特に設問要求に解答表現がきちんと論理的に合致しているかに注意してください。

最後に、論文系の区分の午後Ⅰ試験は詳細なその試験区分の専門知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。PM区分でも、受験されたほとんどの皆さんが、何らかの開発プロジェクト業務に携わっていると思います。直接のPM経験がなくても、自身の業務経験と合わせて最後まで、あきらめず必ず合格するという強い意識をもって臨むようにしましょう。

## <午後Ⅰ>

### 問1 プロジェクト計画の策定

#### 【採点基準】

#### 【設問1】

「経営管理部だけの意向に基づいて計画されている」点を明示的に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し9点。

#### 【設問2】

- (1) 「業績を一目で判断できるビジュアルな表現」を明示的に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し7点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点。

#### 【設問3】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各4点。
- (2) 「業務プロセスの整理と既存システムの改修の仕様確定」、「事業部門の要員の支援」を明示的に示し、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し9点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているもの

に対し9点。

#### 【講評】

モニタリングシステムの開発を題材にしたプロジェクト計画に関する問題でした。プロジェクトの環境や状況をとらえ、問題文の文脈や設問の趣旨をよく踏まえて解答する必要があります。この点でかなり難しかったと思われます。選択した人は多かったのですが、なかなか得点を伸ばせない状況が伺えました。

設問1は「経営管理部だけの意向に基づいて計画されている」が解答要点です。この点を明示的に示さないと不正解としています。表現が甘い場合、5点としました。

設問2(1)は「業績を一目で判断できるビジュアルな表現」という点が解答要点です。(2)は、「業務プロセスや処理サイクルの統一」、「データ項目の整合性確保」を適切に表現する必要があります。

設問3(1)は、問題文に準じた表現が求められます。手掛かりをしっかり押さえて解答する必要があります。(2)は「業務プロセスの整理と既存システムの改修の仕様確定」、「事業部門の要員の支援」が解答要点となります。表現の甘い解答は5点としました。(3)は、クラウド化に関する基本方針が策定中で、モニタリングシステムの開発に適用が難しい旨を適切に表現して正解としました。

この問題は、解答表現を絞るのが困難で得点が伸びなかったようです。解答の根拠を明確にしていくことが特に求められます。

## 問2 進捗管理について

### 【採点基準】

#### 【設問1】

- (1) 解答例の解答のみ各4点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (3) 解答例の解答のみ6点。

#### 【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

#### 【設問3】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

### 【講評】

営業支援システムの開発を題材にした進捗管理に関する問題でした。本問は、3問中唯一記述でない解答を含んでいます。進捗管理の定量的表現に不慣れな人は敬遠したようで、選択した人は少なかったようです。ただし、解答要点や設問要求の意味をしっかり把握して解答すれば高得点も可能です。ただし、問題文に従ってその文脈できちんと解答しないと得点が伸びないので、適切な解答を確実に探していくことが求められます。

設問1(1)はそれぞれ、「2か月」、「1か月」が正解です。正答率は高かったように見受けられます。(2)はどう解答すればよいか迷った人が多かったようで正答率は低かったです。L社からの製品納入をとらえ外部依存関係が考慮されていないことを適切に解答して正解にしています。(3)は「製造・単体テスト」で別解はありません。これも正答率は高かったです。

設問2(1)は、「最終的に納期が守れるかが判断できない」旨が解答要点になります。(2)は「進捗を客観的に評価できない」旨が解答要点です。きっちり解答できた人は少なかったです。いずれも要点が甘い場合、得点を3点としました。

設問3(1)は、サブシステムXの画面設計と並行して帳票設計を行うことと帳票設計は他のサブシステムの担当者をアサインすることを指摘して正解になります。解答要点が多いので、十分な解答は少なかったです。(2)は、画面と帳票の整合性を取る作業の必要性と遅れのリスクを表現して正解です。遅れのリスクまで表現できた解答は少なかったです。(3)は「クリティカル・パス」が解答要点となります。変更される可能性について適切に表現して正解としています。

## 問3 リスク管理

### 【採点基準】

#### 【設問1】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し5点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各5点。

#### 【設問2】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

#### 【設問3】

- (1) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (2) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。
- (3) 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。

**【講評】**

インターネット販売システムを題材としたリスク管理の問題でした。一部解答を考えにくい設問も見られましたが、比較的適切に解答できています。要求されている解答が何かをよく考え解答表現する必要があります。

設問 1(1)は、「マニュアル作成作業を契約スコープに加える」ことが解答要点となります。この設問は正答率が高くありませんでした。(2)は「サブシステム間インタフェース確認テストが開始できなくなる」ことが解答要点となります。(3)cは「役員にエスカレーションする」ことが解答要点となります。dは「データ入力作業に対する追加契約と追加料金請求」が解答要点となります。(2)(3)の正答率は高かったです。

設問 2(1)は、「マニュアル作成に関する要望」が解答要点となります。(2)は、「レビュー出席可能かどうか」が解答要点となります。(1)は正答率が高くありませんでした。

設問 3(1)は、「他の箇所への影響」が解答要点となります。(2)は、「納期と予算を守る」ことと「優先度の低い機能を削る」ことが解答要点です。(3)は、「合同仕様変更会議」が解答要点です。設問 3は総じて正答率が高かったと思います。

記述式の解答に際して、設問要求や問題文を踏まえて「問われていることを客観的に確実にいえるレベルの表現で」解答をまとめることが大切です。また、俗っぽい表現や稚拙な表現は避けて、プロジェクトマネージャとして適切な表現を心がけてください。そうすることによって得点力を高めることができますし、解答の実力を養っていくことにつながります。

なお、どの問題を選択するかは合格するための重要な要素です。3問から2問選択ですので、言い換えると「どの1問を捨てるか」ということとなります。一見、解答数が少ない問題が楽そうですが、解答数が少ない分、配点が高いので得点率の変動が大きくなります。有利とはいえませんので、安易な問題選択は避けた方が無難でしょう。実際の問題の難易度は取り組んでみないと何ともいえませんが、問題文のテーマやドメイン、設問文の解答のしやすさなどを目安に、迅速かつ適切に問題選択できるように、演習を重ねていきましょう。